

* 2017年1月改訂(第2版)
2009年11月作成

日本標準商品分類番号

872329

胃炎・胃潰瘍治療剤

日本薬局方 レバミピド錠

レバミピド錠100mg「TCK」

胃炎・胃潰瘍治療剤

レバミピド顆粒20%「TCK」

《レバミピド顆粒》



REBAMIPIDE

貯法：室温保存（顆粒 バラ製品：吸湿注意、開封後は密封すること）
使用期限：外装に表示

	錠 100mg	顆粒 20%
承認番号	22100AMX02004000	22100AMX01905000
薬価収載	2009年11月	2009年11月
販売開始	2009年11月	2009年11月

【 禁忌 】 (次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

* 【 組成・性状 】

レバミピド錠 100mg 「TCK」 は 1 錠中にレバミピドを 100mg 含有する。

添加物として、セルロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、無水ケイ酸、ステアリン酸 Mg、ヒプロメロース、マクロゴール、酸化チタン、カルナウバロウを含有する。

外形			色調 剤形	識別コード (包装材料)
直径(mm)	厚さ(mm)	重量(mg)		
 8.1	 3.5	 175	白色フィルム コーティング錠	TU 215

レバミピド顆粒 20% 「TCK」 は 1g 中にレバミピドを 200mg 含有する白色～帯黄白色のフィルムコート顆粒である。

添加物として、乳糖水和物、セルロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ポリソルベート 80、ヒプロメロース、エチルセルロース、マクロゴール、無水ケイ酸を含有する。

【 効能又は効果 】

- 胃潰瘍
- 下記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期

【 用法及び用量 】

- 胃潰瘍
通常、成人には 1 回レバミピドとして 100mg を 1 日 3 回、朝夕及び就寝前に経口投与する。
- 下記疾患の胃粘膜病変（びらん、出血、発赤、浮腫）の改善
急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期
通常、成人には 1 回レバミピドとして 100mg を 1 日 3 回経口投与する。

【 使用上の注意 】

- 副作用
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。
(1) 重大な副作用（頻度不明）
 - ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 白血球減少、血小板減少：白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 肝機能障害、黄疸：AST (GOT)、ALT (GPT)、 γ -GTP、Al-P の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^(注1)	発疹、痒痒感、薬疹様湿疹等の過敏症状、蕁麻疹
精神神経系	しびれ、めまい、眠気
消化器	便秘、腹部膨満感、下痢、嘔気・嘔吐、胸やけ、腹痛、げっぷ、味覚異常、口渴等
肝臓 ^(注2)	AST (GOT)、ALT (GPT)、 γ -GTP、Al-P の上昇等
血液	白血球減少、顆粒球減少、血小板減少等
その他	月経異常、BUN 上昇、浮腫、咽頭部異物感、乳腺腫脹、乳房痛、女性化乳房、乳汁分泌誘発、動悸、発熱、顔面潮紅、舌のしびれ、咳、息苦しい、脱毛

注 1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。
注 2) トランスアミナーゼが著しく上昇した場合や発熱、発疹等が同時にあらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

- 高齢者への投与
一般に高齢者では生理機能が低下しているので、消化器症状等の副作用に注意すること。
- 妊婦、産婦、授乳婦等への投与
 - 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
 - 授乳中の婦人には本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物実験（ラット）で乳汁中へ移行することが報告されている。]
- 小児等への投与
低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。（使用経験が少ない）
- 適用上の注意
レバミピド錠 100mg 「TCK」
薬剤交付時：PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。（PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。）

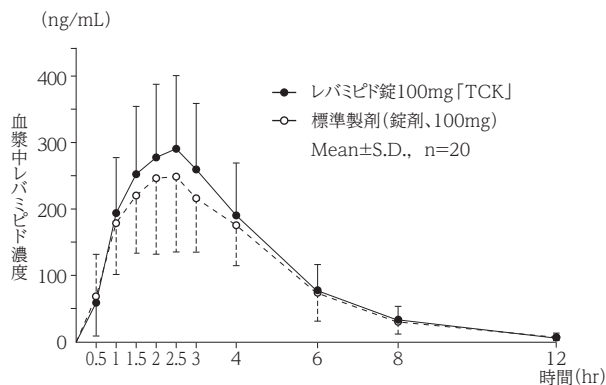
【 薬物動態 】

生物学的同等性試験

レバミピド錠 100mg 「TCK」及びレバミピド顆粒 20% 「TCK」とそれぞれの標準製剤を、クロスオーバー法により錠はそれぞれ 1 錠（レバミピド 100mg）、顆粒はそれぞれ 0.5g（レバミピド 100mg）健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について 90% 信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。¹⁾

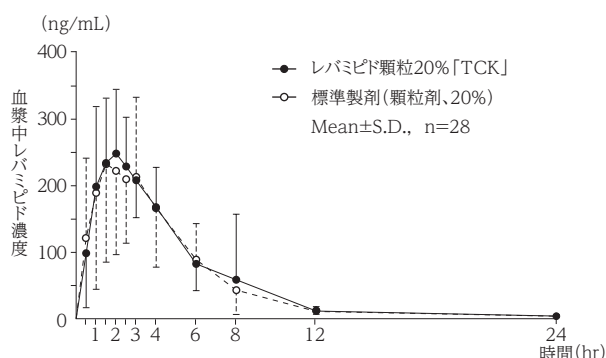
	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→12hr} (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
レバミピド錠 100mg 「TCK」	1284.98±413.07	330.57±113.19	2.40±0.80	1.69±0.38
標準製剤 (錠剤、100mg)	1161.02±389.23	284.03±99.29	2.08±0.78	1.85±0.46

(Mean±S.D.,n=20)



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC _{0→24hr} (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
レバミピド錠100mg「TCK」	1364.66±452.25	325.87±95.20	2.16±1.44	5.09±2.33
標準製剤 (錠剤、100mg)	1310.09±394.83	349.43±116.36	1.84±1.01	5.67±2.36

(Mean±S.D.,n=28)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

溶出挙動

レバミピド錠 100mg 「TCK」は、日本薬局方医薬品各条に定められた溶出規格に適合していることが確認されている。²⁾

*【 薬効薬理 】

胃粘膜防御因子増強薬に分類される抗潰瘍薬であるが、機序として内因性 PG 増加作用、胃粘膜血流増加作用、胃粘膜粘液量増加作用、胃アルカリ分泌亢進などが示唆されている。³⁾

【 有効成分に関する理化学的知見 】

一般名：レバミピド (Rebamipide)

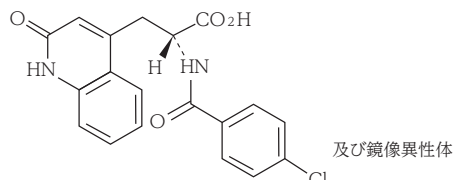
化学名：(2*RS*)-2-(4-Chlorobenzoylamino)-3-(2-oxo-1,2-dihydroquinolin-4-yl) propanoic acid

分子式：C₁₉H₁₅ClN₂O₄

分子量：370.79

融点：約 291℃ (分解)

構造式：



性状：白色の結晶性の粉末であり、味は苦い。

N,N-ジメチルホルムアミドにやや溶けやすく、メタノール又はエタノール (99.5) に極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

N,N-ジメチルホルムアミド溶液 (1 → 20) は旋光性を示さない。

【 取扱い上の注意 】

安定性試験

加速試験 (40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月) の結果、レバミピド錠 100mg 「TCK」及びレバミピド顆粒 20% 「TCK」は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。⁴⁾

*【 包装 】

レバミピド錠 100mg 「TCK」：100 錠 (PTP) 500 錠 (PTP)
1,050 錠 (PTP) 500 錠 (バラ)

レバミピド顆粒 20% 「TCK」：500g

*【 主要文献 】

- 1) 辰巳化学株式会社：生物学的同等性試験
- 2) 辰巳化学株式会社：溶出試験
- 3) 第十七改正 日本薬局方解説書
- 4) 辰巳化学株式会社：安定性試験

【 文献請求先 】

主要文献に記載の社内資料につきましては下記にご請求下さい。

辰巳化学株式会社 薬事・学術課
〒 921-8164 金沢市久安 3 丁目 406 番地
T E L 076-247-2132
F A X 076-247-5740



製造販売元
辰巳化学株式会社
金沢市久安 3 丁目 406 番地